The Future of "九州"

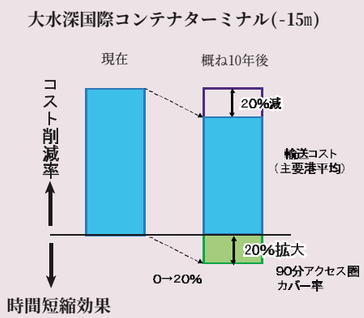
社会基盤が整備された概ね10年後の九州では・・・

1.アジアを中心とした拠点へ

国民生活を支える国際物流基盤の機能充実により、物流の効率化が進みます。また、国際観光リゾートアイランドとしての玄関口が形成されます。

●大水深の国際海上コンテナターミナルの整備

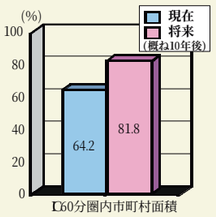
物流の高コスト構造が是正されるとともに、物流サービスの向上が図られます。



▲博多港アイランドシティ地区

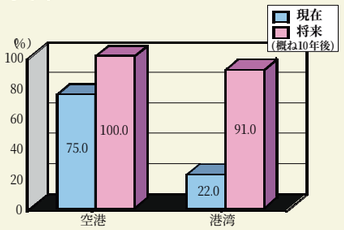
▲北九州港響灘地区

高速交通網の整備によりＩＣからの60分圏が８割以上に拡大するとともに、９割以上の空港・港湾との連結が図られます。



▲ＩＣ60分圏内市町村面積カバー圏

ＩＣ60分圏内市町村：ＩＣから市役所、町、村役場までの時間が60分以内の市町村



▲ＩＣと空港・港湾との連結率

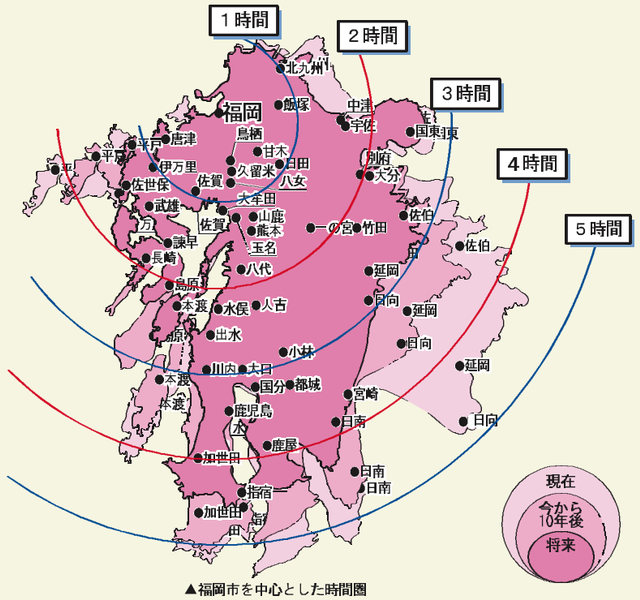
連結率：「連結率」とは高規格幹線道路と地域高規格道路または、これらに接続する自動車専用道路等のインターチェンジ等から10分以内の連結が可能であること。

2.連携した総体的発展へ（九州はひとつ）

高速道路や新幹線の整備により各都市間や空港・港湾と背後の都市及び産業集積地間は時間距離が短縮し、連携・交流圏域が拡大します。

●高速道路網の整備

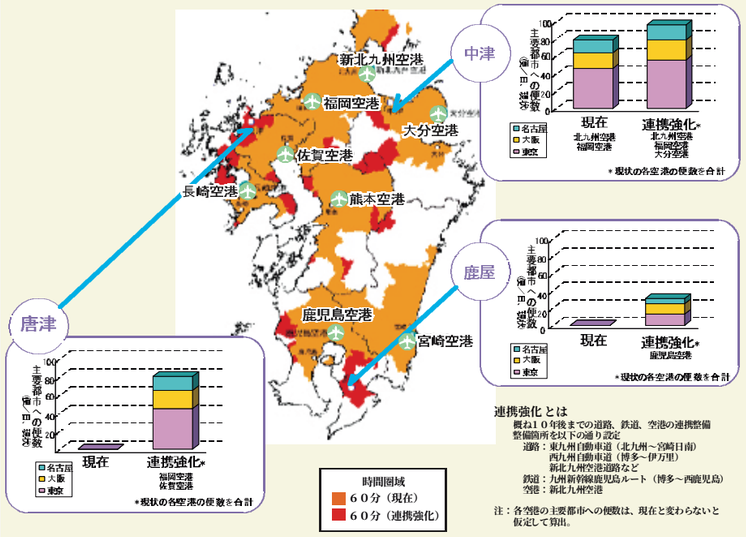
高速道路網の整備により時間距離が短縮し、東西間の歪みが解消されます。



▲福岡市を中心とした時間圏

●マルチモーダル施策による空港へのアクセス向上

道路や鉄道の整備により、空港への60分圏域が拡大し、利用可能な空港や便数が増加し、国内主要都市とのアクセスが向上します。



連携強化とは

概ね１０年後までの道路、鉄道、空港の連携整備整備箇所を以下の通り設定

道路：東九州自動車道（北九州～宮崎日南）
西九州自動車道（博多～伊万里）
新北九州空港道路など

鉄道：九州新幹線鹿児島ルート（博多～西鹿児島）

空港：新北九州空港

注：各空港の主要都市への便数は、現在と変わらないと仮定して算出。

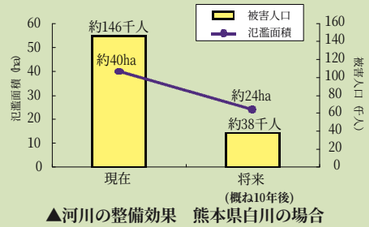
注）国土交通省総合交通体系分析システム（ナビネット・NAVINET）による。

3.安全で安心できる暮らしへ

河川の改修やダム建設、道路防災、老朽公共住宅の建替等により、安全で安心な暮らしが拡がります。

●治水・砂防施設の整備

河川改修や砂防施設の整備により洪水等の被害のない安心して暮らせる地域が拡がります。



▲河川の整備効果　熊本県白川の場合

(概ね30年に１回の確率で発生する洪水に対して)

▲雲仙普賢岳と水無川砂防施設

(島原市、深江町)

●老朽公共賃貸住宅建替事業

(平均戸当たり床面積43㎡)

(平均戸当たり床面積70㎡)

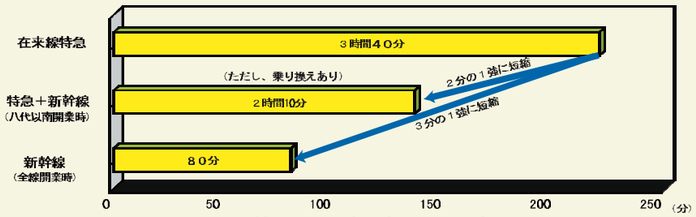
(居住水準の向上・快適居住拠点の形成・全戸バリアフリー化)

●連続立体交差

現在事業中の連続立体交差事業６箇所の完成により、46箇所の踏切が解消され、交通混雑や踏切での交通事故がなくなります。

●九州新幹線の整備

新幹線の整備により、博多から西鹿児島間は現在の約１／３の約80分で結ばれます。



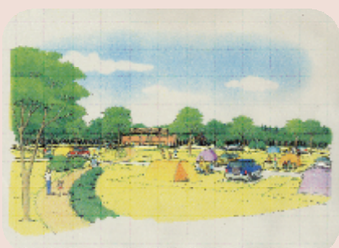
▲博多から西鹿児島間の所要時間

4.個性を活かした多様な地域へ

歴史・文化・芸能・自然等を活かした個性ある多様な地域が拡がります。

●都市公園の整備

国営公園等の整備により、貴重な歴史的・文化的資産の保存・活用を図るとともに、多様化するレクリエーション需要に応えます。



▲休養・余暇活動の充実

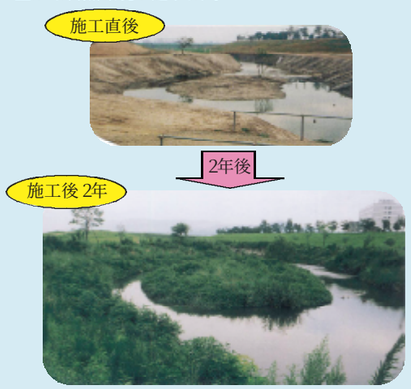
▲歴史体験・学習機会の充実

5.環境と共生した循環型社会へ

人・環境に配慮した整備により、環境への負荷の少ない循環型社会が拡がります。

●多自然型川づくり

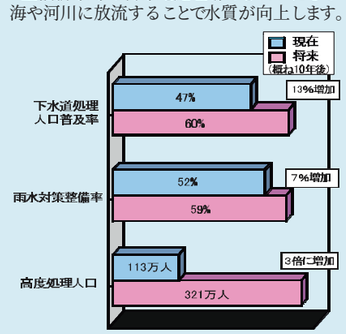
覆土や緩い傾斜の護岸を行うことで生物の住みやすい豊かな自然環境が甦ります。



▲筑後川水系高良川(福岡県久留米市)

●下水道の整備

生活排水等の汚水を処理場できれいにして海や河川に放流することで水質が向上します。



下水道処理普及率＝処理区域内人口／総人口×100 (%)

下水道雨水対策整備率＝雨水対策整備済区域面積／雨水対策整備対象区域面積×100 (%)

高度処理 :通常の下水処理（標準活性汚泥法）だけでは十分に除去できない窒素やリンをさら除去するために行う処理。

2001.6.20作成